

phylla A. Gray. Jour. Jap. Bot. 45: 21-29 (in Japanese). White, M. J. D. 1978. Modes of speciation. Freeman and Company, San Francisco.

* * * *

キツネノカミソリの花粉の exine は tectum, columellae, および foot layer からなり、その遠心面にある網目模様地理的な変異が観察された (Fig. 1)。遠心面中央部の 100 平方ミクロン内の網目の数の平均値を測定し、採集地の緯度の順に配置すると、明白なクラインを示した (Fig. 2)。

□ Heywood, V. H. & D. M. Moore (ed.): **Current concepts in plant taxonomy** 432 pp. 1984. Academic Press, London. ¥17,000. 1982年に表記題名の国際会議が開催されたが、本書はそこで発表された論文の集成で、20の論文が掲載されている。

V. H. Heywood による基調論文, "The current scene in plant taxonomy" (最近15年間における種々な分類学方法論の進歩をふり返ったもの) に続き、ハーバリウム, 図書館, 植物園と分類学, 形態及び解剖学と分類学, データー・プロセスと分類学, 分類学の優先性など, 7テーマについて各々2-5編の論文がある。 (井上 浩)

□ Thomson, J. W.: **American arctic lichens I. The macrolichens** i-xiii+504 pp. 1984. Columbia Univ. Press, New York. \$71.50. 1950年カナダ, マニトバの Churchill 近郊における著者の最初の極地地衣類の調査以来, 35年間にわたる研究成果をまとめたマニュアルである。この間, 著者は10回近くアメリカ北極地域を調査し, また, 比較のためにヨーロッパ極地も実際に調査し, さらに各地の標本庫で標本の研究を行なうなど, 長年月にわたって不断の努力を重ねてきたことに, まず敬意を表わしたい。本書では, American arctic の大型地衣類として62属が扱われており, 属 (1部に種を含む) の検索表に続いて, 属および種をアルファベット順に配列し, 属にはその特徴と種の検索表, 各々の種には主な文献, 記載文とともに分類や分布などについてのノートがある。また, American arctic における分布図が種ごとに示され, さらに大部分の種について, B. Brehmer や L. C. Taylor 等による素晴らしい図がある。著者は1958年のアラスカにおける採集品にもとづいて, すでに *Lichens of the Alaskan arctic slope* i-xv+314 pp. 1979. Univ. of Toronto Press, Toronto を著わしているが, これに比べると対象地域も格段に広められ, 扱われている種の数も多くなっている。例えば, 北極圏で普通に見られるハナゴケ属についていえば, 1979年版の42種から62種へ, *Bryoria* (ハリガネキノリ属) では6種から13種へとふえている。これらの種のなかには, 日本の高山との共通種も多数含まれ, 参考になる点が多い。なお, 本書は2巻で完結するように計画されており, II. Microlichens の完成, 出版が待たれる。 (黒川 進)